

昭和59年度重要貝類毒化対策事業

(2) 広域分布調査

(要 約)

尾坂 康・高林 信雄 (以上、青森県水産増殖センター)

涌坪 敏明・兜森 良則・赤羽 光秋・田村 真通・天野 勝三

(以上、青森県水産試験場)

この調査は、重要貝類毒化対策事業の一環として、青森県の日本海、太平洋沖合の海況や *D. fortii* などのプランクトンの出現状況を把握し、*D. fortii* の分布動態の解明や毒化予知手法の開発の為に資料を得ることを目的として実施した。なお、詳細については、「昭和59年度重要貝類毒化対策事業報告書 (広域分布調査)」で報告済みである。

調 査 方 法

1 調査海域および調査地点

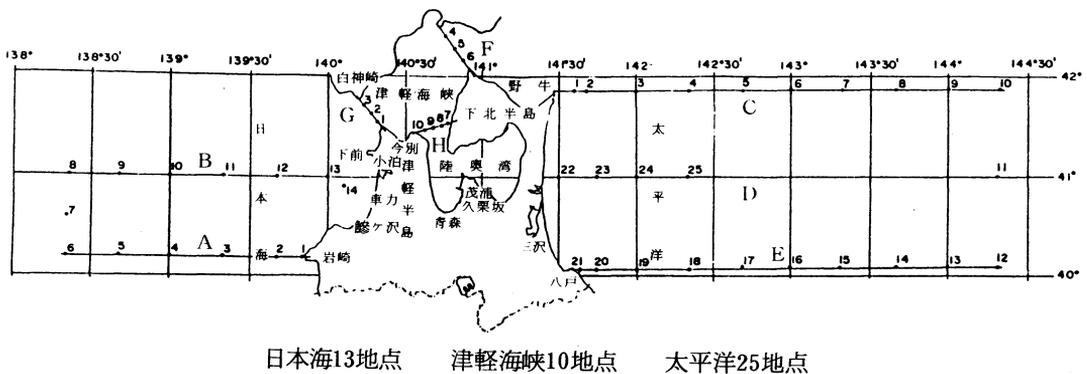
日本海沖合は岩崎、車力沖の13地点、太平洋沖合は尻屋崎、白糠、八戸沖の25地点、津軽海峡は、10地点で調査を行なった。(図1参照)

2 調査時期および回数

日本海沖合は、昭和59年3月～昭和60年3月までの9回、太平洋沖合は、昭和59年3月～昭和60年2月までの9回、津軽海峡では、昭和59年5月から7月までの3回実施した。

3 調査項目および方法

海況および毒化原因プランクトン調査を水深0、10、20、30、50mの5層で実施した。



日本海13地点 津軽海峡10地点 太平洋25地点

図-1 調査海域および調査地点

結 果

- 日本海沖合、津軽海峡、太平洋沖合の各測線で海況、毒化原因プランクトンの調査を実施した。
- 本年度の海況は、日本海側の対馬暖流水の勢力が記録的に弱かった。
- 各海域とも3～5月にかけての沿岸水温は例年よりも2～3℃低めに経過した。
- 太平洋沖合では3～5月にかけて-1.0～2.0℃の水温の冷水塊が広範囲に分布した。
- *D. fortii* の出現状況は、例年と同様に日本海側から徐々に増加し、津軽海峡、太平洋の順に推移した。
- 日本海側、津軽海峡の西側では、*D. fortii* は2,000～3,000細胞/ℓの濃密な出現がみられた。
- 太平洋、津軽海峡の東側では、100細胞/ℓ以上の *P. tamarensis* が出現した。
- 津軽海峡の東側で、本年度始めて *P. tamarensis* が出現したことは、強勢な親潮系水が津軽海峡の東口まで接岸したと考えられた。
- 例年春先に頻繁に出現する *D. acuminata* は、本年、非常に少なく、外海では100細胞を越えることはなかった。
- 例年7月頃から出現する *D. mitra* も本年は、きわめて少い傾向にあった。
- 6月から9月にかけて、*P. compressum*、*P. micanus* が各海域で多く出現した。